

## 西豪州ブラウズプロジェクトの権益取得について

2026年9月18日  
大阪ガス株式会社

大阪ガス株式会社（代表取締役社長 CEO：藤原 正隆、以下「当社」）は、当社 100%子会社の Osaka Gas Australia Pty Ltd（以下「OGA」）が出資する Osaka Gas Browse Pty Ltd（以下「OGB」）を通じて、BP Developments Australia Pty Ltd（以下「BPD」）との間で、BPD が保有する西豪州ブラウズ堆積盆地に位置するガス田鉱区群（以下「本鉱区」）の 5%の権益取得に関する売買契約を締結しました。なお、OGB には OGA と独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構（JOGMEC）が共同で出資する予定であり、本権益取得は規制当局や Browse Joint Venture 権益保有者（以下「JV パートナー」）の承認等を経て完了します。

本鉱区は、西豪州沖合の Brecknock、Calliance、Torosa の 3 つのガス田から構成されています。この鉱区を対象としたプロジェクト（以下「本プロジェクト」）は、現在 JV パートナーによる概念設計（Pre-FEED）の段階にあります。設計にあたっては、二酸化炭素排出量を削減するため、CCS（Carbon Capture and Storage：二酸化炭素の回収・貯留）も計画されており、環境負荷を低減した LNG 生産を目指しています。

本プロジェクトは、豪州北西部の North West Shelf Joint Venture が保有する既存の LNG 液化基地を活用して生産するもので、LNG 生産量は約 1,100 万トン/年を想定しており、OGB は権益保有者として、このうち約 55 万トン/年の LNG を取得する見込みです。本プロジェクトで生産される LNG の取得により、当社の LNG 調達ポートフォリオのさらなる強化が図られるとともに、生産されるガスの一部は、豪州の国内市場にも供給されることとなっており、日豪双方のエネルギー安全保障の向上に資するプロジェクトとなる見込みです。

こうした西豪州および豪州全体への経済貢献や、地域エネルギー安全保障への重要性が西豪州政府より認められ、本プロジェクトは西豪州の「重要プロジェクト（Significant Project）」ステータスを付与されております。

当社は、2000 年の OGA 設立以来、26 年にわたり豪州天然ガスプロジェクトへの投資を通じて、上流事業の知見蓄積と現地パートナーとの強固な信頼関係構築に努めてまいりました。今後も JV パートナーと緊密に連携し、本プロジェクトの推進に貢献してまいります。

Daigas グループは、今後もエネルギーの安定供給という社会的責任を果たしつつ、CCS 等による低炭素 LNG の供給に向けた取組を推進し、持続可能なエネルギー社会の実現に貢献してまいります。

なお、当社は本鉱区の権益取得において、JOGMEC が 2026 年 4 月 1 日に「LNG 等の中長期的な安定供給確保のための新たな取組について」にて発表した新制度の適用の協議を JOGMEC と進めております。

以上